

**Olivier Guersent 氏のスピーチ**

**EFRAG/評議員会カンファランス**

**「国際的な会計基準への動きに関する EU の観点」**

**ブラッセル、2012年10月11日**

紳士淑女の皆さん、

まず、EFRAG、IFRS 財団、各々の議長の Pedro Solbes 氏（EFRAG 監視委員会議長）、Michel Prada 氏（IFRS 財団評議員会議長）に、お招きいただいたことを感謝致します。

また、Barnier（EC）委員からの個人的な挨拶も付け加えさせてください。彼は、競争審議会のため、本日、ルクセンブルグに行かなければなりませんでした。

1年前、EFRAG の 10 周年祝賀会は、過去のマイルストーンと達成を評価する良い機会でした。我々は、多くの利害関係者が EFRAG を、世界的な会計議論における主要プレーヤーの一つと認識していることを聞いて喜んでいます。1年後、この評価はいまだに有効であり、**EFRAG** は、財務報告の議論に対する主要な貢献者として称賛に値します。

EFRAG は、財務報告の開発に関する欧州の見解を、国際的な基準設定過程において、適切かつ明確に示すように役立つという重要な任務を遂行しています。目的は、**EU** の視点から国際的な議論に影響を及ぼして、最終の IFRS が、現在 EU で IFRS に従って報告する 9,000

社と EU におけるその財務諸表利用者にとって適切となるようにすることです。

その目的を達成するため、EFRAG の作業は次の 2 つの主要な事項に分かれます。

1) EFRAG は、IASB に対する EU の積極的なインプットの中心としての役割を果たす。それには、IASB のアジェンダ設定過程に注ぎ込まれる概念的な作業と基準設定過程における技術上のインプットが含まれる。

2) EFRAG は、欧州委員会に対するエンドースメント勧告を作成する。

いずれの使命も欧州委員会にとって不可欠です。そのため、我々は、2010 年から共同融資することで、EFRAG の資源を強化することを決定したのです。我々は、今後の「財務上の視点」（2014 年—2020 年）のための資金調達プログラムを更新するように、現在、共同で作業しています。

しかし、今日のイベントは EFRAG だけのものではありません。これは、(IFRS 財団) 評議員会と EFRAG の共同イベントです。これは、まさに我々が基準設定過程をどのように見ているかというものです。すべて、協調、コミュニケーション、共同の努力についてです。我々は皆、高品質で国際的に認められた会計基準という、同じ目的を共有しています。

EU では、G20 が要求するように、我々は、単一セットの高品質な会計基準の目的を支持しています。これによって、世界中のすべて

の企業にとって、公平な条件が確保され、財務情報の比較可能性と透明性が可能となります。そのため、**EU** は **IASB** が公表するすべての **IFRS** のアドプションを目的としています。我々のエンドースメントの過程によって、ある基準を拒否又はカーブアウトすることができますが、修正することはできません。しかし、我々の目的は明確です。我々は、**IASB** が公表する最終基準を関係者にとって受入可能なものとし、加盟国にはその基準のアドプションに賛成してもらいたいのです。

しかし、これを達成するため、我々は、基準設定過程の初期に、我々の見解を表明する必要があり、**IASB** に聞いてもらう必要があるのです。我々は、**IASB** が世界中からの様々な相反する見解の間で選択しなければならないと認識しています。しかし、我々は、自らの立場を明確に表明する機会を確実に持つようにしたいのです。**IASB** の手続きとガバナンスはこの点で鍵となります。我々は最近の改善を歓迎し、さらなる開発を推奨します。

欧州の声を伝達する際の **EFRAG** の効率性の最善の例示は、エンドースした基準の数です。**2002** 年 [EU が **IFRS** への (勇敢な) 移行を決定した時] から、**EU** は **60** を超える規則を採択し、**IFRS** 又は **IFRIC** 解釈指針を **EU** の法律に変えました。

時々、**EU** は **IFRS** に従っていないという印象を与えますので、これを強調することは重要です。しかし、**IAS** 第 **39** 号の小さなカーブアウト (**30** 未満の銀行が使用) と **IFRS** 第 **9** 号 (金融安定化との結び付きを前提とした特別なケース) を除くと、すべての基準と解釈

指針は、加盟国にとって受入可能であり、我々はエンドースしているのです。

しかし、余りにも楽観的な見方はしたくありません。

**2011年と2012年**は国際会計基準にとって重要な年と考えられました。

- 国際会計基準と米国会計基準は、多くの論点、すなわち、金融商品、保険、収益認識、リースで揃うであろう。
- 主要国（米国、日本）はIFRSアドプション国の「クラブに参加する」ことが期待された。
- 評議員会戦略レビュー、モニタリング・ボード（MB）のガバナンス・レビュー、EFRAGの限定的なガバナンス・レビューという重要なレビューが着手された。

これらの高い期待に直面して、我々は現在どこにいるのでしょうか？**2011年**は重要な年であったのか、それとも後退したのでしょうか？

**I-まず、IFRSは本当にグローバルか？**

米国では、SECはさらに数か月を必要とすると公表しましたが、決定をアジェンダにまだ載せていません。我々は、IFRSへの変更から生じるかもしれない米国作成者にとっての課題や負担を理解しますが、我々は米国からのより積極的で具体的なメッセージがないこ

とを非常に残念に思っています。EU の忍耐には限界があり、不満が増大しています。

米国からの明確な見解がないことで、不確実性が生み出され、IFRS が真に国際的な会計言語となることが阻まれています。例えば、日本は意思決定を躊躇しているように見えます。

このような状況が、IASB による高品質で国際的な基準の開発に影響を及ぼさないことが利害関係者にとっては重要です。

米国と日本がもたもたしている一方で、他の国々（中国、インド、ブラジル、ロシア、韓国）は益々関与しています。

我々は、どうして IFRS を適用していない国々の代表を IASB ガバナンスの枠組みで正当化し、このルールをアドプションするかどうか分からないまま、その強い影響力を会計基準設定で受け入れることができるのでしょうか。

このような理由で、我々は、モニタリング・ボードはまず、IFRS を国内市場で使用する国だけで構成し、次に、IFRS を適用する主要な新興経済圏に拡張すべきと考えます。

## II- 次に、我々はコンバージェンスに関してどこにいるのか？

コンバージェンスは、各国が IFRS のアドプションを決定するために役立ちます。多くの努力とエネルギーがすでにその過程に注ぎ込まれています。しかし、主要な未解決プロジェクトの予定は経過してしまいました。

それでも企業と利用者は待っています。

**金融商品プロジェクトは最も重要です。**我々は、**G20**からの要求（より多くの引当金を、より早くに）に応える堅固な基準を必要としています。

我々は、**貸付金の減損**に関する **IASB** と **FASB** との 7 月の共同会議はうまくいかなかったことを聞いて心配しています。貸付金の特徴（平均満期日、種類等）の相違によって異なる見解になると聞いています。大西洋の一方では好ましい選択肢と思えるものは、他方では経済的に現実的ではないようです。

しかし、共通のモデルを生み出すという **G20**からの命令があり、私の理解では、**Hans**（**Hoogervost**）が金融安定化理事会（**FSB**）に進捗報告書を昨日提出しました。私は、**G20**と我々自身に一つの質問、すなわち、**コンバージェンス**とは何を意味するのかということを探るべき時と考えます。

合理的な期間内に、運用可能な（利用者から求められている）基準を公表することと完全な**コンバージェンス**の間にはトレードオフがあります。

具体的には、完全に同一な **2**つの基準がないまま、**コンバージェンス**は達成できるのでしょうか？ 同じ目的（より多くの引当金を、より早く）を目標として、同じ方向に向かい、多くの類似点がある

モデル（予想損失モデル）を示しますが、すべての点で完全に同意せずに行けるのでしょうか？「コンバージェンス」と呼ぶのに十分でしょうか？

この質問を提起するだけの価値はあります。コンバージェンスは、時宜を得た解決を犠牲にしてはならないというのが主な理由です。金融危機が始まってから 4 年が経ち、引当金のルールに結論を下し、固める時です。監督規制は強化され、調和化されています。規制上の基準の基礎となる会計上のフレームワークを最終化させましょう。

**IFRS** のグローバル化（又は脱グローバル化）とコンバージェンスの課題について、我々は明確に **2013** 年を「真の年度」と見ています。

**EU** レベルでは、利害関係者の中には、我々が後退しており、一つの不可欠な質問を提起するとの印象を持つ人がいます。**EU** にとって、**IFRS** のプロセス内に留まるのはまだ有益であるのか、有益である場合、どのような方法によるのかという質問です。我々は、これが高度な政治的討論に値すると考えており、今秋、**ECOFIN** レベルで討論する予定です。

私は、最初の質問に対する答えは「**yes**」でなければならないと考えます。**EC** は、2000 年初めに独自の調和化を止めて、上場企業が連結財務諸表に **IFRS** を使用することを要求する決議を行いました。

我々の目的は比較可能な財務報告を生み出し、国際的に最善の実務を揃えることでした。比較可能で、透明性があり、信頼できる財務

情報が効率的で統合された資本市場にとって必須であることは、誰も疑問視しないでしょう。

**IFRS** は、**EU** 域内取引と同様、国境を越えた取引を促進すると我々が確信したのとして選択されました。その目的は現在でも有効であり、その目的を満たす現実的な代替案はありません（「**EFRS**」でしょうか？ 欧州会計基準審議会というルートを行くと非常にコストがかかり、各国基準と国際基準との間で追加的なレイヤーを生み出すことになり、**G20** が求めるグローバル化の目的と矛盾します）。

我々は、制度内に留まりたいのであり、**IFRS** を置き換えたり、毀損したくないと認識しているので、我々は、**EU** 利害関係者が **IFRS** を受け入れるように、あらゆる努力をしなければなりません。これは、**IASB** の基準設定過程が **EU** の利益を十分に考慮に入れているのか、という **EU** 利害関係者の懸念に応えることを示唆します。この結果、**IASB** のガバナンスに関して討論されました。しかし、**IASB** が耳を傾けたり、協議する方法は問題の一面でしかありません。

重要なことは、**EU** がその関心を **IASB** に伝える方法です。**IASB** のガバナンスとデュー・プロセスが大きく改善されるとしても、我々が知力を結集して、我々の見解を首尾一貫して、説得力があり、適宜に示すことができる場合にのみ、国際的な会計基準は、**EU** の利益を満たすこととなります。**EFRAG** の最善の努力にもかかわらず、**EU** は現在、これを達成するために苦戦しています。

EU の構造ではいつものことですが、我々が達成する必要があることは、1つの声で話すことです！

基準開発中には、メッセンジャーである **EFRAG** が 1つのメッセージを伝えます。

しかし、**IFRS** の適用と執行から生じる経験を **IASB** の基準設定過程にフィードバックするプラットフォームも必須です。執行の問題になる場合、メッセンジャーは、**ESMA** でなければなりません。

この点に関して、我々は、ガバナンスのレビューをするために **EFRAG** が開始したプロジェクトと、様々な利害関係者、すなわち、各国基準設定主体、作成者、利用者、監査人、学者、規制当局と相互に作用する方法を歓迎します。この範囲を拡張するために今年の夏に行われた決定は賢明なものです。**EFRAG** のガバナンスを透明性があり、公平で、説明責任があるように設計することが重要となるでしょう。難しいプロジェクトですが、EU の影響力の強化はそれに左右されます。

特に、主要な論点は、ある基準の技術的評価と政治的評価をいかに結合させるかということです。これに関する見解は分かれています。欧州大陸の伝統は、会計基準設定を政府の活動と見なす一方、アングロサクソンの伝統は、会計専門家が重要な役割を果たしてきたと見なします。我々は、**IASB**（及び **EFRAG**）の独立性の重要性を疑問視しませんが、好むと好まないとにかかわらず、政治は基準設定に存在します。危機によって、堅固で、合理的に独立した国際会計

基準の設定過程の重要性が証明されました。それは公共の利益に対応するものです。

**EFRAG** は当初、基準の評価に当たり、委員会に技術的支援を提供することを意図しました。現在、**EFRAG** は、技術上の専門知識で国際的に認識される団体となりましたが、欧州関係者の期待も高まっています。

**EFRAG** がエンドースメントの過程ですべての公共政策の検討を統合するように強化する時期がおそらく来ています。

このように日進月歩の中で、最も重要な点は、我々が同じ目的を心に留めて作業し続けることであり、それは最善の会計基準を開発して、財務諸表のすべての利用者のニーズに役立つことです。**IASB** は世界の基準設定主体であり、**EFRAG** は **EU** の声であり、欧州委員会は **IFRS** を適用する主要国を代表します。

ご清聴ありがとうございました。

以上